



事務局：和光市教育委員会生涯学習課 青少年担当 ☎ 464-1111



私たちの活動について

和光市青少年育成推進委員会 会長 大坂 良子

子どもたちの健やかな成長を願い、よりよい環境づくりを目的に、いろいろな活動をしています。子どもたちの購買行動には、親も地域も大人がみんなで責任を持つことが大切。そこで始まったのが「青少年を守る店」の活動です。

「あひる」のマークのプレートを店頭に掲示していただき、青少年に有害と思われるものは売らない、買いにきたら注意を促す、また子どもたちが危険な目に遭ったとき、困ったときなどもお力を貸していただき、青少年の健全育成にご協力をいただいています。万引きなどの犯罪が低年齢化しているといわれる現在、協力店の皆様と共にこの活動を続けていきます。

次に、「有害図書等自動販売機」は、青少年の健全な成長を阻害する恐れのある図書（性的・暴力的）などが収納されています。過去には市内に18台ありました。通学路や学校の近くにあるため設置者に撤去をお願いしたり、地域の皆様のご協力で、年ごとに減らすことができ、現在1台もありません。新たに設置されることのないよう見守っていききたいと思います。

私たちは有害図書を追放するだけでなく、

子どもたちがよい本に親しみ、気軽に読書する習慣をつけたいと考え、図書館や地域文庫の場所や利用方法を載せた「図書マップ」を作成し、保育園・幼稚園、小・中学校に配布しています。このような活動を、広く市民の皆様にお知らせする広報「あひる」を年2回発行し、広報と共に配布しています。

このような活動に対して、平成15年10月10日「第5回朝霞地区地域安全暴力排除推進大会」において、「和光市青少年育成推進委員会」の活動が防犯功労団体に選ばれ、表彰を受け感謝状をいただきました。顧みますと30数年前、子どもたちによい本を読むことの薦めとして始まったのがこの会です。地域や小・中学校から選出された推進員の多くの皆様のお力があって、現在まで続いています。

最近の新聞やテレビの報道で子

どもたちにかかわる犯罪記事を目にすると、地域の皆様の見守りと、温かい家庭生活がいかに大切で必要なことかを、改めて感じさせられます。子どもたちがのびのびと楽しく安全に過ごせるよう、これからも皆様のご理解とご協力をいただき、よりよい環境づくりを推進していききたいと思います。



▲ 防犯功労章の盾

健やかな 子どもの 成長を

- 心の居場所

平成 15 年度青少年育成推進員の報告から

明日を担う子どもたちを取り巻く環境をより良くするのは、私たち大人一人ひとりの力です。小さな力も集まれば百人力。いろんな関わりの中で、見守っていききたいと思います。

少年非行の原因「身近なところ」に

(子どもとのコミュニケーションを大切に)

- 情報交換会から -

10月8日、朝霞警察署和光市駅前交番の警察官との情報交換会が行われました。

最初に驚いたことは、近年全国で検挙した犯罪全体において青少年の犯行が40.8%これに対して、埼玉県は47.5%・朝霞警察署管内は61.7%と高いことです。(表1) その中で多いのが街頭犯罪で、路上強盗・ひったくり・オートバイ盗・自転車盗・自動販売機荒らしで、特にオートバイ・自転車盗難は100%が青少年で占めています。万引きなどの犯罪でも、「バレなければいい」「欲しいから」といった利欲や好奇心、遊び感覚で盗んでいるのがほとんどです。徐々に罪悪感が薄れ、犯行をエスカレートしてしまうおそれがあります。(表2) にも見られるように、万引きの低年齢化が如実です。次に、身近なところでは、14年ごろから東上線沿線の朝霞から池袋にかけて、カラー別に分かれたグループ(中学生から有

職・無職者を含め100名近くが確認されている)が、週末や休日前の深夜に朝霞・志木・和光を徘徊したり、和光市駅前のロータリーや駐車場に集結していることがあるということです。一度入団すると抜けるのは難しく、中心は暴力団にまで及んでいるようでとても怖いことと思いました。

非行防止対策として、「家庭・学校・地域・行政・警察が一体となり、一人ひとりが自分の問題としてとらえて協力してほしい」と強く望んでおりました。子どもたちが罪にふれる行為をした動機の第1に挙げられるのが、「親がかまってくれないので気を引きつけた」「友達から仲間はずれにされなくなかった」などです。

保護者は、子どもたちが話しやすい雰囲気作り、作りに心がけ、会話を大切にしていかなければと実感いたしました。

表1 手口別補導状況 (平成14年中)

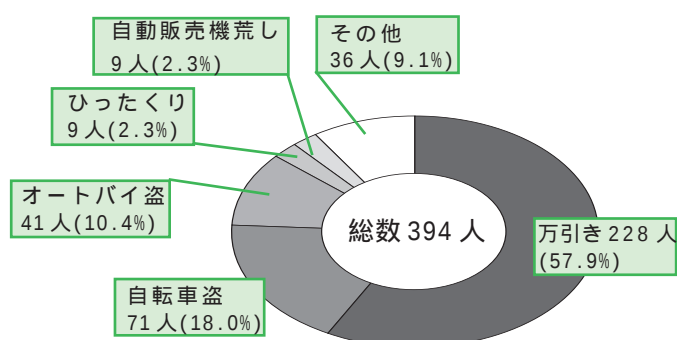
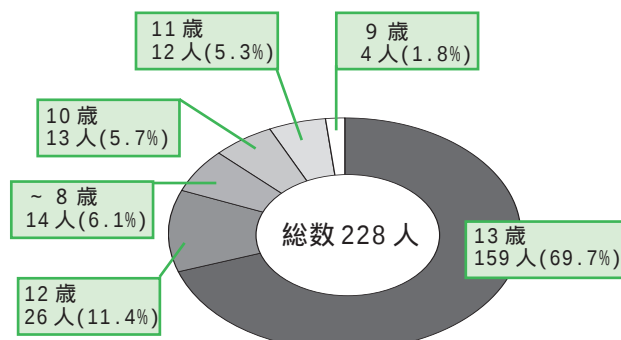


表2 万引きの年齢別補導状況 (平成14年中)



「みんながひとつになって」- 君のライブ - に参加して

暮れも押し迫った12月27日、裏方としてお手伝いをしました。サブタイトルにあった「君のライブをとおして異世代交流」は、まさにそのとおりであって、舞台は、老若男女の皆さんの熱気でいっぱい。「もうすぐだね」と言って出番を待つお年寄りや園児との何げないふれあいがほほえましく映りました。この事業の目的は、こんなところにもあるのかなと思い、立ち止まって眺めていました。



めざして

あ り ま す か -



「家庭の日」シンボルマーク

「親子で楽しめるところ」— 視察研修 —

青少年育成推進員の視察研修会として、11月12日川口市のスキップシティ内にある「NHK公開ライブラリー」と「彩の国くらしプラザ」の2ヶ所を見学しました。

スキップシティには、ほかに「サイエンスワールド」「彩の国ビジュアルプラザ」があり、有料と無料の施設があります。私たちは、「NHK公開ライブラリー」にて貴重な映像と音声のフィルムなど懐かしい番組を視聴（1人から3人用のブースを利用できるようになっている）し、「彩の国く

らしプラザ」では、生活の中での環境への配慮、安心・安全な暮らしの工夫などについて体験し、勉強することができました。

子どもと一緒に遊びながら楽しく学べる生活センターだと思います。皆様も足を運ばれてみてはいかがでしょうか。



▲スキップシティ（川口市）

朝霞地区4市青少年育成推進員情報交換会に出席して

1月30日、志木市のいろは遊学館で、朝霞地区4市プラス富士見市の青少年育成に関する情報交換会が行われました。それぞれの取り組み・活動の発表だけで、実質45分の時間では、内容が伴わないように思えました。

青少年の健全育成を願う心が同じであるならば、共通の取り組みなども必要になってくるのではないのでしょうか。

「たこ～凧～あがれ」

新春凧揚げ大会に参加して

1月10日、荒川河川敷で新春凧揚げ大会が行われました。穏やかな日和に恵まれ、手作りの凧がたくさん大空に舞い上がりました。その中には、昨年12月中央公民館で行われた親子凧作り講習会に参加し、作られた凧もありました。

子どもたちは、糸を引いたり伸ばしたり、風に向かって走ったり、真剣な顔、うれしい顔。自治会の方たちの審査もユーモアがあって、大人もみんな楽しそう。

表彰式の後、前日から作ったという味のしみこんだ豚汁で、お腹も心も温まりました。



▲凧揚げ大会表彰式の様子

教育相談室から見た子どもの様子

石田教育相談員を囲んで

総合児童センター2階にある「和光市子ども教育相談室」を知っていますか？

午前中は、不登校気味の児童生徒の学校復帰への支援、午後には、保護者や教職員に対しての教育相談などを行っています。たくさんの方々の様々なケースに接して思われることは、大人が子どもによりよい体験をさせることによって、よい子どもよい大人が育っていきます。型にはめて育てるのではなく、一緒に体験して成長していくことが大切でとのこと。傷が浅いうちに出向くことで、解決の糸口が見つかるような気がしました。



▲相談室の先生方

左から阿部先生、石田先生、本橋先生

ふれあい あれこれ

15年4月に着任したピカピカの新任先生、早1年になります。
子どもたちとどうふれ合っているのでしょうか。



● 子どもの目線に立って

広沢小学校 教諭 有馬直子



念願叶って初めて子どもたちの前に立ったとき「何をどうやって教えようか」ということばかり考えてい

た私ですが、子どもたちの何にでもひたむきにがんばる姿を見るたびに、教えることよりも、むしろ教えられることの方が多いことを実感させられます。広沢小学校に赴任して約1年、毎日が違ったキラキラで輝いている子どもと過ごす時間は、私にとってかけがえのないものです。

いつまでも、子どもの目線での感動や驚きを失わず、子どもたちと共に生き、学びあう中で共に成長し、歩き続ける教師でいたいと思います。

● 子どもたちと学び合いながら

第五小学校 教諭 朝原加奈子

4月に元気いっぱいの2年2組の子どもたちと顔をあわせてから、早1年が経とうとしています。この1年は、本当に子どもたちに助けられた1年でした。私事で恐縮ですが、昨年10月に私は大切な友人を亡くしました。精神的にかなり落ち込んでいた時に元気をくれたのは、子どもたちの笑顔と笑い声だったように思います。

また、周りの先生方にもたくさん励ましていただきました。こんなステキな職場で仕事ができることをうれしく思います。これからも、子どもと共にいろいろなことを学び続けていける教師でありたいです。



● 子どもたちとのふれ合いをとおして

白子小学校 教諭 高橋良子



幼い頃からの夢であった、小学校教師になれた喜びを感じながら子どもたちとふれ合う毎日。子どもたち

は明るく活発で、どんなことにも一生懸命取り組む姿を見せてくれます。4月に初めて出会った子どもたちは毎日の学習や行事などを通して、最後までがんばる粘り強さや、相手を思いやる心を身につけ、成長を重ねてきています。

常に子どもたちの目線に立って子どもと共に喜びを感じ、子どもの小さなサインを素早く受け取ることができる教師でありたいです。そして、子どもとのふれ合いをこれからも大切にしていきたいと思います。

● コラム

凍てつくような寒い朝、白い息を吐き、耳までを赤くした生徒児童たちが元気に「おはよう!」「おはようございます」と交わしている。当たり前といわれているあいさつだけど、生徒たちの通った道は、なぜかほんのり温かく、そこにいた大人までも優しい気持ちにしてくれていました。
(あいさつ運動に参加して)

「あひる」に関する
ご意見・ご感想を事
務局(生涯学習課青
少年担当)へお寄せ
ください。